

養鶏(700羽飼育)

作成:2013年1月30日

※作業は、「養鶏班」が担当しています。

興味のある方、是非一度見学にいらしてください。お待ちしております。

南瓜やふすまを発酵させた自家製飼料の他、広島牡蠣の貝殻を使うなど餌を工夫し、平飼いの元気な有精卵を生産しています。現在700羽飼育しています。

施設の規模:平成18年度建設(1棟9室、計68坪、運動場を含む敷地174坪)

飼養羽数:700羽

飼養方法:平飼い、餌:南瓜の発酵飼料・生野菜・青米・牡蠣の貝殻・配合飼料

事業の方針:発酵飼料を自家生産するなど本格的な循環型農業をめざす。安全で安心な平飼いの高品位の卵を供給することにより生産額の向上を図る。

餌の入手について

餌の提供ご協力ありがとうございます。

- ①おから:とうふ屋さんから、フロンティアまで配達していただいています。
- ②野菜(主にキャベツ・白菜):食品製造会社、スーパー3店からいただいています。



養鶏場の全景(幹線道路入口から100m)

養鶏の風景です。



鶏舎の内部1



鶏舎の内部1



フロンティアの餌は美味しい!ケッコー!



私の彼女です??

”養鶏作業の苦労話”

平成24年2月に白老町では珍しい大雪が降り、一晩で40cmくらい積りました。屋根が壊れそうになり、日曜日に雪下ろし、養鶏場までの除雪をしました。

寒いしばれる、マイナス20度まで下がります。

鳥に与える水はポンプで地下水を汲み上げて使用しています。寒くなると水落しをしてから帰りますが、それでもバルブから凍結するのでお湯をかけて溶かします。冬は、ビニールで囲い風や寒さを防いでいます。

平成24年にはO157が流行し、漬物工場が営業を縮小したことから餌にする野菜の確保が困難になりました。